1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0272300955		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホームサンライフ三笠		
所在地	青森県平川市館田西和田201－2		
自己評価作成日	平成28年9月5日	評価結果市町村受理日	平成29年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成28年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

各自の個性を尊重しながら、集団体操をしていただいている。ADLが低下し、車イスを使用することになられても、住み慣れた場所で生活していただけるように、職員皆で協力している。家族の方が希望する場合は、看取りのケアも行っている。毎日、午前はレクリエーション活動をしており、ラジオ体操や軽体操（北国の春、青い山脈）、ゲーム、歌唱等を日替わりで行っている。中学生の体験学習、福祉大学の実習の受け入れもしており、入居者の活性化につながっている。三笠訪問看護ステーションと24時間体制で連絡をとることができる他、三笠ホームケアクリニックが2週間に1回、往診しているため、入居者の健康面で安心できる体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「自分らしく一人ひとりの人生が輝くように、地域の方と共に、ゆっくり楽しく心からの笑顔に触れられるよな生活を目指す」という理念の実践に向け、傾聴、共感に努め、自分の身に置き換えて対応することを全職員に喚起し、日々の支援に努めている。

地域との交流も活発に行われ、小・中学校との交流の他、中学生の体験学習や福祉大学の実習受け入れ等、地域貢献も果たしている。

また、医療機関等と連携し、家族が宿泊しながら看取りの介護ができるよう、体制を整備している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、努力目標を毎朝唱和し、理念の実践に向けたサービスに取り組んでいる。	地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を作成しており、ホーム内の目の届く場所に掲示したり、唱和する等して、職員間で共有化を図っている。「利用者の笑顔を一日一回は見れるように」等、職員個々が理念を念頭にしたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方、知人の面会等の交流がある。また、ねぷた祭りや文化祭等の行事に参加したり、小学校の学習発表会、廃品回収等に協力している。	併設するデイサービスやデイケアの利用者（地域住民がほとんど）が気軽にホームを訪れている。また、小学校の学習発表会や廃品回収、町内会のねぷた、公民館まつり等に参加している他、中学校の体験学習も受け入れる等、地域貢献にも努めながら、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌を隔月発行し、地元の町会に回覧して、ホームの理解、交流に努めている。法人の在宅介護支援センターを中心にキャラバンメイトの活動をしており、地域の方の認知症理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、外部評価への取り組みや家族アンケート結果、利用者へのサービス等の報告をして話し合い、今後のサービスにつなげている。	2ヶ月に1回、殆どのメンバーの参加を得て、運営推進会議を開催している。会議で話題となった医療との連携や看取り等については、法人内の6つグループホームの会議で共有し、指針とする等、必要に応じて法人全体でも取り組みながら、より良い運営のために活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度や業務上の疑問点、書類作成のアドバイス等で相談にのっていただいている。地域包括支援センターの研修にも参加し、協力関係を築いている。	運営推進会議の場を利用したり、FAXや電話、または、直接出向く等して、入退去の報告や生活保護利用者に関する事等の連絡を取り合い、課題解決等に向けて行政との連携を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束をしないケアについて理解して、利用者に対しても声がけ、見守りを第一に対応している。日中は施錠せず、ベット柵を使用しているが、立ち上がる際の支えとしている。	身体拘束については法人全体の研修等で取り上げながら、全職員で理解を深めている。本人の希望により、立位保持という自立に向けた対応でベッド柵を使用している利用者がいるが、マニュアル等も整備し、基本的に身体拘束は行わない方針で日々のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修等で学ぶ機会を作り、全職員が虐待に対して強い認識を持ち、統一したケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されていた方もおり、職員が研修を受講したり、講演を聞く機会を持ち、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に入居時、重要事項説明書で説明し、疑問点等についても丁寧に話して同意を得ている。退去に関しても家族と話し合い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族アンケートを実施しており、その意見を基に業務改善を行っている。職員だけでは気づかない部分もあるので助かっている。	頻繁に面会に来てくれる家族が多く、面会時には必ず声をかけ、話を聞くようにしている。また、日々のコミュニケーションの中で、利用者の表情や言動に注意し、傾聴を心がけ、不満や意見を察知しながら、より良いホーム運営やサービス向上のために反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、ケアカンファレンス、申し送り等、職員が意見を出し合い、提案にも対応している。	日常的に意見交換を行っている他、月1回、ユニット合同の会議を行っている。会議に出席できない職員には、議題を提示して事前に意見を出してもらい、会議の結果は全職員に周知を図りながら、解決可能なものは即実行している。また、法人内のグループホーム管理者会議や全事業所管理者会議等で検討し、運営に反映させる体制となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給、退職金制度があり、職員のやりがい等につながっている他、資格取得に対する助成金も設けている。また、時間外等の手当の支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加するようにしている。内部研修として、グループホーム内の研修も年に4回位実施している。研修内容は回覧し、全職員で内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、グループホーム6事業所の管理者会議を実施し、情報交換をしている。県のグループホーム協会の定例会研修会にも参加し、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前に家族・本人と面談し、話を聞くことで、情報を得るようにしている。本人・家族の要望やADL等を確認し、ベットの配置等を工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた方にはホーム内を見学していただき、グループホームの雰囲気を感じていただくようにしている。不安や困っている事の相談にのり、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで対応できる事は対応し、無理な時は他部署との連携を取りながら、本人・家族が必要としているサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	四季の行事、料理、その他の様々な場面で利用者の意見を聞き、教えていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を共有し、問題点がある時は家族と相談し、対応していく。また、面会や外出等も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人の面会を積極的に勧めている。	入居時のアセスメントや本人、家族、知人等との会話により、馴染みの関係を把握しており、電話や手紙の代筆も支援している。また、自分で作っていたリンゴ畑を見たいという方が多く、家族の協力を得ながら出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でも気の合う方、そうでない方がいるので、職員が間に入り、お互いの意見を聞くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により他施設に移られた方に関しても、相談があった時は話を聞き、他部署との連携を取っている。また、退去先の関係者に対して、利用者の状況等を伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が声がけし、利用者の思いや意向をできるだけ把握するように努めている。家族にも本人の思い等を聞くようにしている。	日々のコミュニケーションを大切にしており、傾聴し、表情や言動を観察することで思いや意向の把握に努めている。また、家族は頻繁に来てくれるので、その時に情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な機会で生活歴や生活環境がわかることが多いため、職員全体で情報を共有し、その方に合ったケアをするよう努めている。また、利用者のプライバシーを守ることも、職員で統一している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームの日課表はあるが、無理強いせず、本人の状態に合わせた過ごし方をしていただいている。居室で過ごされることが多い方には定期的に訪室し、声がけをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は訪問看護師、ホームケアクリニック、家族、可能な方には本人にも出席していただき、話し合いをしている。出席できない方には文書で意見をいただき、多くの方の意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時の会議には、家族や可能であれば本人、訪問看護師等にも出席していただき、法人内の理学療法士や作業療法士からも意見を聞きながら、チェックシートに沿ってモニタリングを行い、個別性のある、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画も付け、記録時にプランに対しての記録も記入するようにしている。モニタリングも実施し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等の時は、法人内の介護タクシーの利用を組み合せ、家族の負担の軽減を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の文化祭、ねぷた祭りへの参加、小学校の廃品回収への協力をしている。また、市の図書館より定期的に絵本を借りて、利用者に読んでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三笠ホームケアクリニックで月２回、往診している。状態に変化があった時は随時連絡を取り、対応していただいている。他の病院にも定期的に受診しており、歯科に関しては往診してくれている。	法人内に医療機関があるが、これまでの受療状況を大事にし、利用者・家族等が希望する受療を勧めており、通院は基本的には家族が行っている。また、認知症、歯科等、専門医療機関との連携を図りながら、受療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	三笠訪問看護ステーションと医療連携契約しており、毎週月曜午後に看護師に都度、血糖値測定や体調の相談にのっていただいている。また、夜間でも対応し、24時間体制をとりながら、ホームケアクリニックとの連携を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院・家族との連携も密にして、こちらでの生活状況等の情報を交換し、本人のいつもの状態を継続できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	入居時、事業所の方針の説明をし、事前確認書にサインをいただいている。利用者が重度化し、ホームでの生活が困難になってきた時は、再度家族と話し合いを行い、家族がホームでのターミナルケアを希望する場合は医療との連携をとって対応し、取り組んでいる。	職員は内部・外部研修で理解を深め、ターミナルケアに取り組んでおり、利用者や家族に対し、重要事項で説明している。また、入居時にアンケートで意向を確認し、利用者の状況に応じて、関係者との連携の下で意思統一を図り、家族が寝泊まりしながら看取りができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームケアクリニック協力の学習会や緊急対応時のマニュアルを作成している。職員は普通救命講習を受講し、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、デイサービスの合同避難訓練を実施し、ホームで夜間想定避難訓練を年1回、緊急連絡網の訓練も行っている。居室入口に利用者のADLの絵を貼り、緊急時に備えている。また、災害時の飲料水、食料、ストーブ等も確保している。	年2回、デイサービスと合同で避難訓練を実施しており、ホーム独自でも夜間想定の訓練を年1回、緊急連絡網の訓練も行っている。訓練には、町内会の一員である地元の消防団からも協力を得ており、災害時の体制が整えられている他、飲料水や食料、ストーブ等の備蓄もなされている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重して、その人に合わせた対応をしている。尊敬の気持ちを忘れずに、プライバシーにも十分に配慮している。	利用者の言葉を傾聴し、共感するように努めており、手が離せない時は利用者にお願いをして、理解を得るように対応している。ホームでは、利用者が自由にやりたい事を行えるようにしており、一人ひとりを尊重した対応に努めている。また、気になる声がけがあった時は、自分の身に置き換えて対応するよう、随時、職員に気づきを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がいつでも利用者の相談に対応できるような体制でケアしている。行事や苑外活動への参加は、必ず本人の意思を確認している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課表はあるが、本人のペースに合わせて過ごしていただいている。利用者はホールでテレビを見たり、話をしたり、将棋を指したり、新聞を読んだり、様々に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、床屋さんに来ていただいている。外出時は、特に、女性の方は何を着て行くのか、服をたくさん出して迷っているため、一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は本人の食べたいものを聞き、献立に反映していただいている。後片付けやお盆拭き等は、利用者に手伝っていただいている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、ホームの職員が食材を発注して調理しており、希望を取り入れたメニューとなっている。蕎麦が苦手な方にはご飯を、青魚が苦手な方には他の魚等、必要に応じて代替食を提供しており、個々に合わせ、ゆっくりと食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の方がバランスを考えたメニューを作成している。利用者に合わせた粥、刻み、ミキサー、とろみ等、形状を変えている。食事・水摂取量を毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯洗浄は毎回実施し、夜間は義歯消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ誘導、声がけをして、排泄パターンを記録して習慣化し、できるだけ失禁を少なくしながら、トイレでの排泄ができるようにしている。	トイレは各居室で行っており、排泄パターンに応じて誘導し、羞恥心に配慮した声がけに努めている。トイレでの排泄を目指し、ゆっくりと立ち上がる、車いすのブレーキをかける等の練習を繰り返し行い、安全を確保しながら見守りをし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	薬だけに頼らず、食材の工夫をしている。毎朝、ヨーグルトや牛乳、ヤクルト、りんごの摂取をしている他、水分量を確認しており、自力摂取できない方には介助している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は1週間に2回となっているが、外出、体調不良で入浴できなかった方は変更している。入浴の無い日は足浴を行っており、皆様が楽しみにしている。	入浴は基本的に週2回、好みに応じた対応に努めており、全体的に熱めのお湯を好む傾向にあるが、実際に温度計で適温を示しながら、浸かり過ぎないように配慮している。また、露出を少なくする工夫も行い、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しながら、入浴を楽しんでもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1週間に1回、シーツ交換を行い、暑い時等はクーリング枕を使用したり、掛け布団の調整をしている。発汗多量の方は下着の交換も行い、眠剤をできるだけ使用しないようにしている。夜間は1時間に1回の見回りをし、安全確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の飲み忘れが無いように、手渡しをして服用を確認している。介助が必要な方には砕く、とろみをつける等の工夫をしている。受診後に変更のあった方は記録し、全職員で把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性の利用者が将棋を指したり、新聞を読むことを毎日の日課としている方、毎日ドリンクを1本飲むのを楽しみにしている方等、様々である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出した際、そばを食べてきたり、家族と1日ゆっくりと過ごして温泉に行く等と、家族の協力を得て出かけている。	家族が頻繁に面会に訪れ、温泉や食事、ドライブ等の外出に協力いただいている。また、日常会話の中から利用者の行きたい場所を把握し、外出行事に取り入れるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができない方は、家族から委任状に署名していただき、お金をホームで預かっている。受診時、必要時に使えるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、職員が電話をかけて、家族との交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールに鉢植えを置いたり、ホールの壁画を月毎に変えて季節感を出している。事業所内は冷暖房を完備して、温度調節をしている。	施設内の四季折々の装飾は華美でなく、共用スペースは明るく、対面式のキッチンやソファ等、家庭的な雰囲気が保たれている。また、全館床暖房で、エアコンや加湿器等を併用しながら、居心地の良い環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルはお互いの顔が見えるように配置し、和やかな雰囲気を出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で大切にしていた物や位牌等を持ってきたり、自分でお供えをしている。また、椅子を持ってきたり、家族の写真も飾る等、本人が居心地良く暮らせるようにしている。	居室には利用者個々の好みに応じ、イス・テレビ・写真・位牌等が持ち込まれている。また、持ち込みが少ない利用者には声がけをして、一緒に作った作品を飾る等、本人が居心地良く過ごせるように、積極的に居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内には手すりを設置し、所々に椅子を置き、休憩できるようにしている。自分の部屋を認知できない方には少し大きめの名札を貼ったり、目印となる物を下げる等して対応している。		